



発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 大町 慶華  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

# 念じられ 照らされて

## 被災難民から高山市民に そして共に地球人へ

末永賢治

東日本大震災と原発事故から丸三年。いまだに約二十六万人が避難生活を強いられています。先の見えない日々には耐えかね命を絶つ人も出ています。聞き、当時も今も依然変わらぬ『非常時』が続いている現実を、しっかりと認識しなければと思つています。被災地で踏ん張る身内、友人、知人を代弁する意味でも、この場をお与えいただいた感謝と、伝えるという義務を強く感じています。同じ国の同じ空の下で苦悩を深くする人々の現実の状況を共有することが、国を変えてゆく一歩になると信じています。

「名も無き人達に自分を重ねてほしい。感じてほしい。考えてほしい」被災地と原発事故汚染地域を撮り続けている写真家の大石芳野さんの言葉に胸をうたれています。

時間の経過とともに大事なこと、認識や責任や対策や政策も全てが薄れていっています。各省市の復興に対する姿勢も形にはなっていない。まして、原子力政策は国策です。国の責務として事故の始末があることを決して忘れさせないために、国民が声を出し続けなければと思いを深くしています。国は、大丈夫だと思いたい人間の心理を利用していません。それは、津波浸水地域を再び住居区域にしたり、原発事故汚染地域を帰還可能



〔略歴〕  
一九五六年、宮城県雄勝町生まれ。東日本大震災による津波で自宅、民宿、レストラン全流出。震災後、国府町あじか復興レストランすえひろ開業。高山市在住。

地区に変えたりする施策にもあきらかです。人は誰も故郷に戻りたい想いを抱えて生きているものから。しかしながら、その心情と現況の厳しさとは相反するものです。福島第一原発から、今この時にも高濃度汚染水が流れ続けている事実、対策も対処も行わない国が、国民を守れないのは明白でしょう。

人の命を、想いを、痛みを、何だと思つているのか。怒りとやるせなさばかりがつのります。政策に都合の良い情報に欺かれず、自分の目で、心で、実感した事実のみを受け止め、自らで行動するしかないのでしょうか。

私が心の指針とし支えとする教えを、ここに記させて頂きます。一切の有情はみなもつて世々生々の父母兄弟なり。〔歎異抄〕第5章  
（いま現に生きとし生けるものは、あらゆるいのちとつながりあつて生きる父母兄弟のような存在なのである。）  
この世で出会う全ての人々は、父や母、兄や弟、姉や妹、子や孫のように、つながった命を生きているのです。  
詩画家水木鈴子さんの詩『地球母さん』の一節をご紹介します。『キラキラの緑豊かな美しい水の惑星・地球星！その母なる大地は地上全生命体のすべてを我が子と信じ、限りない無限の愛を分けへだてなく与えて下さり、万象万物が無差別・無所得の愛で生かされています。私たちが人間という子供たちは、全て与え生かして下さい。地球母さんに対して、感謝の心と報恩行を久しく忘れてしまつておられます。たくさんの自然を破壊してしまつたことを今こそ真剣に反省し、母さんに心からお詫びを申し上げ、一刻も早く大調和の生き方に変えなければなりません。無条件の愛で生かして下さい。地球母さんに習つてお互いに助け合い、話し合い、許し合い、分かち合

い、生かし合つて生きていかなければ」ひとりひとりの力は小さなものですが、誰かを支える希望にはなれます。この高山の地で救い頂いた私どもが、身をもって実感しております。その思いを日本中に世界中に、人と自然を守る生き方に広げていきたいららどんなにか素晴らしいでしょう。〔世界全体が幸福にならなければ、個人の幸せはありえない〕と、説いた宮澤賢治の言葉をも、今こそ深く噛み締めなければ。

## 津波に流された松で しおりを作りました

飛騨仏教青年会  
2011年3月11日、東日本大震災による津波の被害に遭い、流されてしまった高田松原（岩手県陸前高田市）の松を使って「しおり」を製作しました。  
東日本大震災を心に刻み、被災地から届く「私たちがわすれないで」という叫びに応えるために、そしてあの時、私たち誰もが感じた、「当たり前ではない今」「いのちへの愛おしみ」を忘れないために、この松が“こころのしおり”となることを願っています。  
しおりのデザインはそれぞれ親鸞聖人の筆跡を写した「願」「慈」「道」の文字と、真蓮寺先代住職・故三島富丸氏の描いた観音さまの全4種類、各400円です。売上金は、この松が生きた地の「高田松原を守る会」にお届けします。  
高山別院事務所・本堂下自動販売機にて販売中！



### 飛騨の真宗

## 伝承散歩③ 二つ葉栗

清見町三日町 (県指定天然記念物)  
昔々、三日町村に源次という人が住んでいました。彼は日頃の態度が非常に悪く、評判も良くありませんでした。  
ある日、近所のみんなで立山へお参りをする事になりましたが、神も仏もないがしろにしている源次は行こうとはせず、村に残ることにしました。皆が留守の間に、他人の山に薪を盗みに入り、山から下りる途中につまずいて、転げ落ちてしまいました。起き上がった、何気なく頭に手をやると、愛用している頭巾がないことに気が付きました。探しても見つかりません。数日後、近所のみんなが帰ってきて、「立山で焦熱地獄（地獄谷）へ行ったとき、向こうから薪を背負ったお前さんがやってくるんですよ。そしたらお前さんが足を滑らせて、真つ逆さまに落ちていきよつた。お前さんを抱き止めようとしたとき、手に残つたのはこの頭巾やつた」と不思議なことを言いました。  
そこにあつたのは無くしたと思つていた頭巾でした。さすがの源次もこれには恐れおののき、震えあがりました。  
翌朝、お寺へ駆け込み、住職に今までのこと

をすべて話しました。住職は「仏さまはお念仏する人を救つてくださる。このご恩に報いるために、感謝の生活を送りなさい」と諭しました。  
それから源次は人が変わったかのように、お寺に積極的に参りお念仏申し、村のため人のために率先して働くようになり、御恩報謝の生活を送りました。  
源次は亡くなる間際、枕元に集まつた人たちに「おりや若いころは本当に申し訳ないことばっかしたつた。俺の家の前に栗の木があるやろ。その木の西に向いた枝に二つ葉がついたら、仏さまのご慈悲で浄土に往生させていただいたと思つてくれ」と言いました。  
翌年の春、栗の新葉が萌え出し、源次の言葉通り、西に向かった枝に二つ葉がたくさんついでいました。村の人々も源次の往生を信じて疑いませんでした。



☎テレホン法話(0577)342313 ☎3月21日~31日:森香里氏「秋聲寺」 ☎4月1日~10日:大泉玄壽氏「明善寺」 ☎4月11日~20日:白川悟氏「願生寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

私を照らす

ひかりの言葉 ②

酒井 義一

もうひとつの物語

想像をしてみてください。目の前に真っ青な海が広がっています。その大海原にぽっかりと浮かぶ島がありました。その島には、善良で平和を愛する人たちが暮らしてました。自然と共に生活し、今を一生懸命に生きようとしていました。

島の北側には、別の大きな島国がありました。ある日、その国にひとりの男の子が生まれました。男の子はすくすくと育ち、やがて少年となりました。少年は周りの大人たちの影響を受け、「南の島は怖い」「悪い鬼がいる」と思い込むようになり、やがてサル・キジ・イヌという仲間を連れて南の島に攻めていきました。大きな島国の名前はニッポン。男の子の名前は桃太郎といひます。平和に暮らしていた南の島の人たちは、次から次へと殺されていきました。子どもも大人もお年寄りも…。島には言い尽くせない悲しみや怒り、無念さが広がりました。しかし、それとは裏腹に、桃太郎の国・ニッポンでは、「桃太郎は英雄だ」「正義の味方だ」という言い伝えが、いつまでもいつまでも、そして今でも残っているというのです。

正義という名のもとに

これは有名な「桃太郎」という

話を、殺される鬼の側から見た話です。もちろんこれは作り話ですが、私たちの周りにも、これとよく似たことがあるのではないのでしょうか。

たとえば、国と国との戦争がそれです。争いの根っこには「私たちは正しい」という主張があり、同時に「相手が悪い」という思い込みがあると言います。

人間が自分の頭に正義という名をつけたらどんな残酷なことでも出来る

自分は正義の味方と思い込み、相手を悪い奴と決めつけてしまえば、人間は正義という名のもとに、どんな残酷なことでも平気で行ってしまえる存在です。

人が人を殺すという過去の戦争が、そのことを証明しています。今、日本は近隣諸国との関係があまりうまくいっていません。北朝鮮は何を考えているのかかわからない怪しい国という見方が漂っています。中国や韓国とは、領土問題や歴史認識の問題で関係が悪化しています。

この国が、再び正義という闇に飲み込まれることがないように…。そう願わずにはいられません。

ひとりの人ときちんと出会う

さて、もう少し別な、もっと身近なことで考えてみましょう。私たちの人間関係です。学校や会社や家庭の中で、勝手に「私は正しい」「相手が悪い」と思い込んで

しまうことはないでしょうか。すると相手は、まるで鬼のように見えてくるものです。

私たちの中には、そのような闇が存在しています。私を照らすひかりの言葉は、私たちの中にある闇を闇と知らせています。

大切にしたいことは、私の勝手な思いで相手を見るのではなく、相手と具体的に会おう、ということ。目の前の人は、実は生きる道を一生懸命に願っているひとりの人なのです。ひとりの人ときちんと出会っていくということを、何よりも大切にしたいものです。

あなたへのメッセージ

物語には、必ず「もうひとつの物語」が存在します。それを知るためには他者の声を聞くことが大事です。私は他者の声が、きちんと聞こえているでしょうか。人が人と争う時、そこに正しさや正義をかたくなに握りしめている私はいないでしょうか。



次回は藤場芳子さんの「女と男のナムアマミダブツ②」です。

春の彼岸会 永代経法要

3月24日(月)まで 午後1時から 勤行法話 20日(木) 三本昌之氏 21日(金) 三島多聞氏 22日(土) 四衛亮氏 23日(日) 三島清圓氏 24日(月) 中飯田正夫氏

高山別院 蓮如忌法要

日時 3月25日(火) 午後1時から 内容 勤行・法話 講師 名畑崇氏

大谷婦人会 追甲会・総会

日時 4月11日(金) 午後1時から 会場 高山別院本堂 法話 大町慶華輪番

高山三組若声会 連続公開学習会

日時 4月9日(水) 午後7時30分から 会場 高山別院 御坊会館 テーマ 「善悪を超えて見えてくる世界」 講師 海法龍氏 (東京教区長願寺) 聴講料 500円

お参りの際、念珠は持たんとしつかんかな?

念珠は、お内仏やお寺の本堂なかせないものです。浄土真宗においては、念珠はお念仏を称えた数を数えるため、煩惱を断つため、災いから身を守るために持つものではありません。

蓮如上人は、「御文」(二帖目第五通)において、念珠を持たずに仏前です手を合わせることは、「仏さまを軽んじ、手づかみにしているようなものだ」と述べておられます。「浄土真宗では、念珠を持つことよりも信心が大切では

ないか」というご意見もあるかと思いますが、念珠ひとつにおいても大切にされた蓮如上人のお言葉からは、私たち真宗門徒の生活の姿勢が問われているように思えます。仏様の前では念珠を持つように心がけてください。

合掌のしかた

合掌は、念珠をかけた両手が「みぞおち」あたりにくるように手を合わせてください(合わせた手をふくらませたり、こすり合わせることはしません)。

念珠は、一輪(略念珠、小念珠)のもの二輪のものがああります。一輪念珠の場合は、房を下にして、念珠の輪の中に両手を通し、親指で軽く念珠を押さえて合掌します。二輪念珠は、一つの親玉を親指ではさみ、房は左側(左手の甲)に下げて合掌します。

原発と真宗

私たちはどこに立って原発を考えるのか



講師 藤井学昭氏

入場無料

日時 2014年4月10日(木) 午後7時~9時30分 会場 高山別院御坊会館 (岐阜県高山市鉄砲町6番地)

寺パ

飛騨仏教青年会は、高山別院を会場に出会いの場を作ろうと、お見合いパーティーを企画しました。未来を共に語り合えるパートナーを探してみませんか。

日時 5月11日(日) 午後4時~9時

会場 ①お見合い会場 高山別院 ②懇親会場 長瀬(上三町10-3)

【応募資格】 20~40代の独身男女 ※宗教・宗派・檀家は問いません

【応募人数】 男女各15名程度 (応募多数のときは抽選)

【応募締切】 4月21日(月)

【主催】 飛騨仏教青年会

申し込みについてのお問い合わせは 高山別院(0577-1321068)まで。